

バスワールド2023視察 番外編

ヨーロッパ
フランス パリ・ストラスブール編
～EVバスの普及が凄い～





- 2019年10月以来4年振りの訪問であったが、特にEVバスの導入が大幅に進んでいることが印象的だった。
- EVバスではない公共のバスも、ハイブリッドバス、CNG（天然ガス）バスなど電動化や低公害化が進んでいた。
- ヨーロッパのEVを多く見かけたが、日本メーカーのEVも多く見かけた。
- 路地には、充電スタンドが多く設置され、小型EVを始め充電している風景を多く見かけた。
- 地下駐車場にも充電スタンドが整備されていた。
- 超小型EV（クアドリシクル L6eなど）も路地などに多く駐車していた。
- FCEVのトヨタ・MIRAI（新旧）のタクシーも多く見かけ、パリ五輪に向けFCEVの導入が進んでいることが確認できた。



見かけた公共のバスの多くがEVであった。2019年よりはるかに多く走っていた。



2019年頃から走っている、bluebus社のEVバス。運航会社はRATP。



IVECO製のハイブリッドバス



100%バイオメタノールの連接バス



市内観光用オープントップの2階建てEVバスとTESLAのタクシー



市内観光用のオープントップ2階建てEVバス



Honda e



NISSAN e-NV200



NISSAN LEAF(現行)



NISSAN LEAF(初代)



Mercedes Benz EQE



VW ID.3



Hyundai IoniQ 6



DS DS7 CROSS BACK E-TENSE(PHEV)







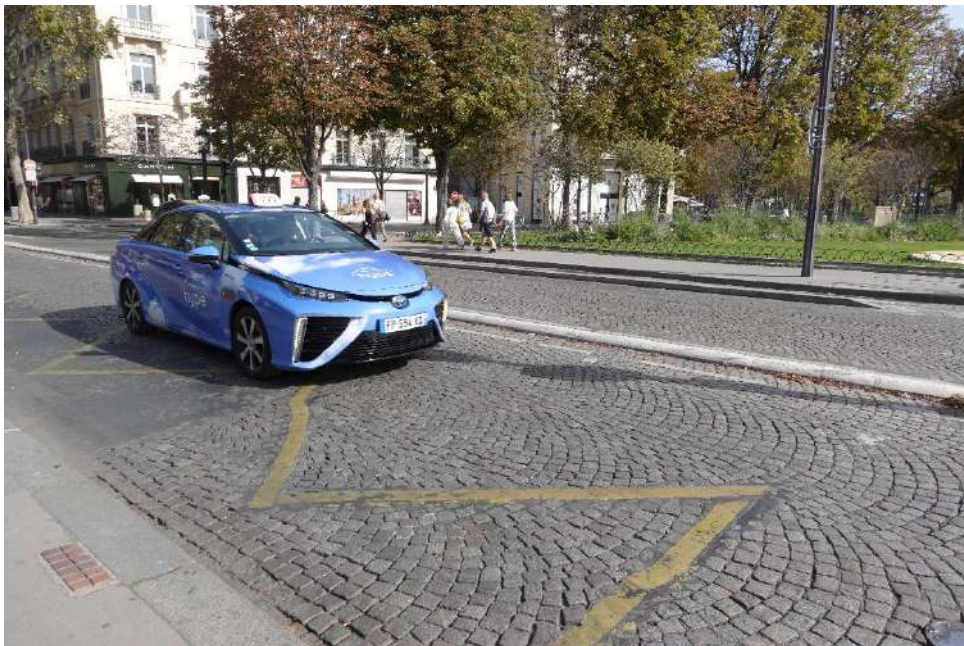
市内路地には小型車が多い。左から、トヨタ・iQ(ICE) スマート・EQ(EV) シトロエン・AMI(EV)



充電中のFIAT・500eと走行中のシトロエン・AMI(超小型EV 欧州L6eカテゴリー)



セーヌ川沿いの道路。地下充電設備案内標識と走行中のEVバス、EV(FORD Mustang Mach-E)

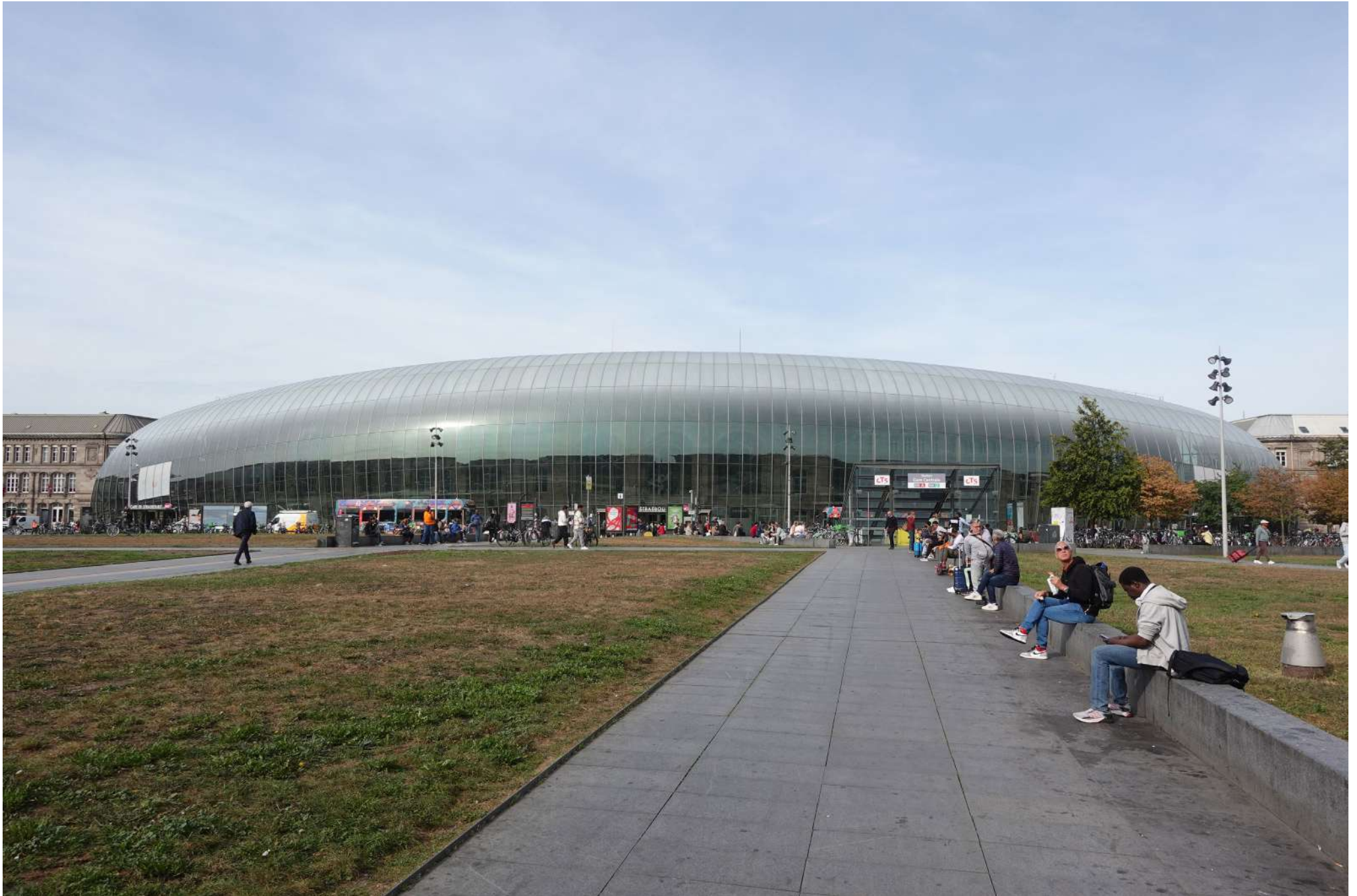








- ・ 中央駅を出ると派手なカラーリングのEVバスが沢山停車していたのには驚いた。EVバスは、スペイン・イリザール社製のものだった。
聞いた話では、59台導入されていると言う。
- ・ 連接バスは、IVECO社製のハイブリッドを多く見かけ、
バスの電動化は日本よりはるかに進んでいた。
- ・ 街には、EVやPHEVも多く走っていた。
- ・ 川沿いなどの路地には、普通・急速の充電スタンドが整備されていた。
- ・ 街の交通はLRT (Light rail transit) が中心であった。





ストラスブール中央駅前に並ぶEVバス





旧市街 ノートルダム大聖堂前が発着所となっている





あとがき

- ・本レポートは、2023年10月に弊社にて調査したものです。
- ・本レポートの無断転載等は禁止させていただきます。
- ・本レポートを通して、皆様の開発のお手伝いに貢献出来れば幸いです。

お問い合わせ先：株式会社東京アールアンドデー
営業部担当：森竹 智法 moritake.tomonori@tr-d.co.jp
住所：神奈川県厚木市愛甲東1-25-12
電話：046-227-1101
HP：<https://www.tr-d.co.jp/>